

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成20年9月4日(2008.9.4)

【公開番号】特開2006-58289(P2006-58289A)

【公開日】平成18年3月2日(2006.3.2)

【年通号数】公開・登録公報2006-009

【出願番号】特願2005-211848(P2005-211848)

【国際特許分類】

G 0 1 N 27/327 (2006.01)

G 0 1 N 27/30 (2006.01)

G 0 1 N 27/416 (2006.01)

C 1 2 M 1/34 (2006.01)

H 0 1 M 8/16 (2006.01)

B 0 1 J 19/08 (2006.01)

【 F I 】

G 0 1 N 27/30 3 5 3 R

G 0 1 N 27/30 3 1 1 A

G 0 1 N 27/30 A

G 0 1 N 27/46 3 3 6 A

G 0 1 N 27/46 3 3 6 G

C 1 2 M 1/34 E

H 0 1 M 8/16

B 0 1 J 19/08 A

【手続補正書】

【提出日】平成20年7月22日(2008.7.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 6】

前記第 1 のメディエータの酸化還元電位が、前記第 2 のメディエータより正の電位側であり、カソードとして用いられる請求項 1 に記載の酵素電極。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 4 】

本発明に係る酵素電極は、導電性部材と、酵素と、第 1 及び第 2 のメディエータと、を有する酵素電極であって、第 1 のメディエータと第 2 のメディエータとが担体によって、導電性部材に固定化されており、且つ第 1 のメディエータと第 2 のメディエータとは、互いに酸化還元電位が異なることを特徴とする。